

令和４年度 市民参加と協働のまちづくりの推進にかかる 取組結果について

１ 積極的な「話し合い」の場づくり（市民参加の機会の提供など）

（１）市民懇談会、もりやま未来ミーティング

参加者の多少にかかわらず、通知文の受信者に市の事業や取組をＰＲする効果も期待できる。各グループにはファシリテーター（以下「Ｆ」）を配置。

○ 市民懇談会 【令和４年度 ２件】

＜対 象＞ 住民基本台帳から無作為に抽出（１,０００～２,０００名程度） １８歳以上

＜内 容＞ 市の条例や各種計画等の政策づくりの企画段階において話し合いをしていただき、その結果を政策検討に活用するもの。

○ もりやま未来ミーティング 【令和４年度 ３件】

＜対 象＞ 市民懇談会のうち、１８歳～３９歳の若年層を抽出

＜内 容＞ “守山の未来”について気軽に話し合い、まちづくりや市民参画へのきっかけを提供すること

ア もりやま未来ミーティング（担当課：市民協働課）

＜日 時＞ 令和４年７月２３日（土）午後１時３０分から午後４時３０分まで

＜場 所＞ 市民交流センター サロンルーム

＜テーマ＞ 「まちは誰のもの？～パブリックハック 私から始まるまちづくり～」

＜参加者＞ ２４名

＜目 的＞ 参加者の市民活動への関心度の把握と中間支援構築に向けたアイデア

＜成 果＞ 短時間託児サービス付設や対象に合わせた時間帯でのイベント開催、中高生などの放課後の居場所づくり、体験型イベントの実施などの提案が出されていた。市のサポートとしては、相談窓口の充実と必要な情報提供、参加に対するインセンティブを設けるなどの提案があった。

アンケート結果では、今後の市民活動やまちづくり、市民懇談会などの参加について、すべての参加者から前向きな回答が得られた。その他の質問項目でも概ね好意的な回答結果が得られている。

イ もりやま未来ミーティング（担当課：スポーツ振興課）

＜日 時＞ 令和４年１２月１８日（日）午後１時３０分から午後４時３０分まで

＜場 所＞ 市民交流センター サロンルーム

＜テーマ＞ 「国民スポーツ大会を守山市で盛り上げる『おもてなし』を考えてみよう」

〈参加者〉 全 13 名 うち、参加者 7 名

うち、F 6 名（市民 3 名、職員 3 名）

※12 名が参加予定であったが、5 名が当日キャンセル

※託児利用者は 1 名（児童 1 名）

〈目 的〉 「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025」の開催に伴い、守山市でできる“おもてなし”について参加者の意見を聞き取る

〈成 果〉 Facebook や Instagram 等の SNS による情報発信を盛り込んだ「守山フォトスポット巡り」や、駅前や試合会場において守山の祭り等を披露する「住民参加によるお出迎えイベント」、守山の名所を巡る QR コードを活用したデジタルスタンプラリーなどの意見が出た。これらの意見を参考に担当のスポーツ振興課で実施に向けて具体的に検討していくとのこと。

ウ 市民懇談会（担当課：環境政策課）

〈日 時〉 令和 5 年 2 月 4 日（土）午前 9 時 30 分から午後 0 時 30 分まで

〈場 所〉 市民交流センター 多目的ホール

〈テーマ〉 「2050 年の守山の未来像 守山の環境について夢を語ろう」

〈参加者〉 全 26 名 うち、参加者 17 名

うち、F 9 名（龍谷大学 5 名、市民 2 名、職員 2 名）

参加者 23 名予定であったが、6 名が当日キャンセル

傍聴者 2 名

〈目 的〉 地球温暖化やマイクロプラスチックなどの環境問題が表面化しているなか、策定に取り組んでいる「第 3 次守山市環境基本計画」への参考にすべく、未来の守山の環境がどうあってほしいかについて市民の意見を聴取する。

〈成 果〉 守山の環境について、現状・未来・理想の実現のためにすべきことの観点から話し合っていた。生ごみや耕作放棄地、空き家の有効利用、環境活動の SNS 発信など新たに実施できそうなアイデアが出ていた。今回の意見は今後の審議会に諮っていくとのこと。

エ もりやま未来ミーティング（担当課：守山市議会）

〈日 時〉 令和 5 年 2 月 4 日（土）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

〈場 所〉 市民交流センター 多目的ホール

〈テーマ〉 「守山を住みやすさ日本一のまちにするために」

〈参加者〉 全 46 名 うち、参加者 31 名

うち、F 15 名（龍谷大学 6 名、市民 5 名、職員 4 名）

参加者 32 名予定であったが、1 名が当日キャンセル
傍聴者 17 名（うち一般傍聴 5 名）

〈目 的〉 「住みやすさ日本一が実感できるまち守山」を達成するため、今後の守山市を担う世代の市民に守山の魅力や課題について語り合い、理想のまちについて考えていただく。

〈成 果〉 6 つのグループには市議会議員（議会改革・広報広聴特別委員会）が記録係として同席され、市民懇談会を間近で体験いただいた。

市議会とともに市民懇談会を開催することは全国的にも例が少ないとのこと。

なお、今回の成果物（模造紙）については市議会に贈呈したが、特別委員会で次年度以降の開催方法や市民との関わり方について検討されるとのこと。

オ 市民懇談会（担当課：都市計画・交通政策課）

〈日 時〉 令和 5 年 3 月 4 日（土）午前 9 時から正午まで

〈場 所〉 市民交流センター 多目的ホール

〈テーマ〉 「これからの守山の公共交通について話し合おう」

〈参加者〉 全 29 名　うち、参加者 21 名

うち、F 8 名（市民 4 名、職員 4 名）

〈目 的〉 今後も公共交通を維持・充実していくためにどのような取組が必要かといった視点で意見を求め、策定中の守山市地域公共交通計画をより一層市民の声を反映したものとするため。

〈成 果〉 安全安心で誰もが使いやすい公共交通機関の実現を要望する声が多く出ていた。具体的には、運賃設定や運行経路、電子化（アプリ、キャッシュレス決済）などの観点から意見が挙げられていた。

また、公共交通機関の利用による特典（ポイント付与等）や、親子向けのイベントなどの実施についても提案があった。

(2) 学区市民懇談会（わがまちミーティング） 【令和 4 年度 1 件】

地域を限定した市民懇談会。

守山学区における「まるごと活性化プロジェクト」の一環で実施されている。途中、新型コロナウイルス感染症により中止した年もあったが、令和 4 年度で 8 回目の開催を迎えた。

〈日 時〉 令和 5 年 2 月 11 日（土）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

〈場 所〉 守山会館

〈テーマ〉 「いま、求められる地域のつながりってなんだろう？

～一人一人が幸せに暮らすために地域で必要なこと～」

〈参加者〉 31 名

〈目的〉 まちづくりの担い手づくり、「新たなまちへの関心を生み出す場」
の提供

〈成果〉 4 人に 1 人が 20～30 歳代と若年層の参加も多く、市外からの転入者も複数参加された。龍谷大学の学生ファシリテーターの円滑な進行もあり、終了後のアンケートも概ね良好な回答が得られた。参加者同士が意気投合し、連絡先を交換する姿も見られた点にも本件開催の意義を感じた。

(3) 市民ワークショップ 【令和 4 年度 4 件】

〈対象〉 広報等で参加者を募り、審議会等の委員同士で行うなど、無作為抽出の手段を取らない。

〈内容〉 テーマについての話し合い。

市民懇談会等と同様に各グループにはファシリテーターを配置。

ア 人権啓発広報誌の作成に係るワークショップ（担当課：人権政策課）

〈日時〉 令和 4 年 8 月 25 日（木）午前 9 時 30 分から午前 11 時まで

〈場所〉 守山市立図書館 多目的室

〈参加者〉 11 名

〈目的〉 人権啓発広報誌のデザインや内容についての検討

〈成果〉 ①「人権ってどんなイメージ？」、②「今、気になる！人権の話題」、③「ためになる広報誌ってどういうもの？」の 3 つのテーマについて意見交換。いじめや同和問題、ジェンダー（LGBT）など様々な意見を踏まえつつ、老若男女問わず誰もが手にとってもらえる広報誌の作成が必要との結論に至った。

イ 文化財でつなぐ、守山～これからの文化財の保存と活用を考える～

（担当課：文化財保護課）

〈日時〉 令和 4 年 9 月 3 日（土）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

〈場所〉 生涯学習・教育支援センター（エルセンター）大会議室

〈参加者〉 5 グループ・29 名

〈目的〉 市内に点在する文化財について、文化財の所有者同士のネットワークや横のつながりを創出することで、よりよい保存方法や活用方法を共有する。

〈成 果〉 互いの事例を紹介しあう意見交換会などの機会を設けることで文化財所有者が助け合うことができる。有形の文化財をいかにして次世代に継承していくかは誰しもに関わる共通の重要課題であり、そういった意味でも継続して市内の文化財所有者が「つながれる場」を設けていくべきとの結論に至った。

ウ 立入公園の整備に向けたワークショップ（担当課：土木管理課）

〈日 時〉 令和4年10月15日（土）午前10時から

〈場 所〉 吉身会館

〈参加者〉 7名

〈目 的〉 基本理念「野洲川の豊かな水と緑を活かしたスポーツ・交流・憩いの場」を実現する公園づくりのための意見聴取

〈成 果〉 子どもからお年寄りまで多世代が交流できるような公園としたい。RVパークやマルシェとしての活用といったアイデアが出た一方で、子どもたちがボール遊びができることやペットの散歩に利用できることなど地元の公園としての機能を求める声もあった。また、立入町の地域の特色として、豊富な湧水を活用した小川の整備についても意見が出た。

エ 令和4年度認定農業者等の意見交換会（担当課：農政課）

〈日 時〉 令和5年2月17日（金）午後2時から4時30分まで

〈場 所〉 地域総合センター

〈参加者〉 19名

〈目 的〉 農業者が経営者として、自らの経営方針を定め、営農推進される構造を築く一助とするために、農業者が抱える問題、課題やその改善、解決に向けての考え方を把握するとともに、行政対応として課題解決に向けた制度の創設・運用、補助を行うための基礎資料を得る。

〈成 果〉 A～Cの3つのグループに分かれ、「人の問題」、「後継者不足の問題」、「農業経営の効率化」のテーマについてそれぞれ話し合った。農業の魅力発信や農業体験、儲かる仕組みづくり、農地の集約化、後継者支援などの意見が出た。農業経営者が一堂に集まって、農業に関する課題等を議論する機会や情報交換する機会はあまりないことから、参加者にとっても有意義な時間となったようである。担当課（農政課）にて、今回の意見を参考に農業経営者の支援策を検討すること。

(4) パブリックコメント 【令和4年度2件】

情報発信や意見収集方法に工夫を加え、担当課からの計画に応じて実施

- 「守山市都市計画基本方針（守山市都市計画マスタープラン）改訂案」
(都市計画・交通政策課)

〈意見募集期間〉 令和4年7月1日～7月21日

〈提出者数〉 3件

〈意見数〉 12件

- 「守山市個人情報保護条例の改正」 (総務課)

〈意見募集期間〉 令和5年1月10日～令和5年1月31日

〈提出者数〉 0件

〈意見数〉 0件

2 協働のまちづくりの推進（市民活動支援の継続）

(1) 市民提案型まちづくり支援事業

市民公益活動団体の自主的・自発的に取り組むまちづくり活動を支援するもので、その活動経費に対し、各区分の設定金額に応じた助成金を交付するもの。

ア チャレンジ応援事業（令和4年度新設、上限3万円、助成率10/10）

第一次募集（令和4年5月2日～5月20日、採択4団体）

第二次募集（令和4年5月21日～7月20日、採択4団体）

第三次募集（令和4年7月21日～9月20日、申請なし）

第四次募集（最終 令和4年9月21日～11月17日、採択2団体）

- ・採択団体 : 10団体
- ・助成確定額 : 262,800円

イ 地域貢献事業（旧・きっかけづくり事業 上限15万円、助成率10/10）

- ・採択団体 : 10団体
- ・助成確定額 : 1,336,700円

ウ 自立事業化前提型事業（上限50万円、助成率10/10）

- ・採択団体 : 1団体
- ・助成確定額 : 500,000円

(2) ふるさと納税を活用した「豊かな市民活動のまち応援事業」（企画政策課）

地域活性化や地域課題解決を目的に市民団体などが自主的・継続的に取り組む事業への支援を拡充するため、ふるさと守山応援寄附（ふるさと納税）を通じて、市内外の人から応援してもらえる仕組みとして令和4年度新設。認定された団体は、守山市

のふるさと納税の希望使途のリストに掲載され、指名があった寄付の一部を財源に翌年度に市が補助金を交付するもの。認定委員会を経て、下記の3団体が認定された。

【令和4年度 3団体】

- オムスビの会：8件、95,100円
 - 認定NPO法人びわこ豊穰の郷：89件、1,511,600円
 - ワーカーズコレクティブ たすき星準備会：52件、749,300円
- ※寄付先を特定しない42件は、金額を案分し3団体へ配分

(3) これからの協働のまちづくり職員勉強会（市職員有志ワークショップ）

持続可能なまちづくりの実現に向けて、有志職員による自主的な勉強会を令和3年度に立ち上げ、本来業務の垣根を越え、議題を設定し自由な意見交換形式で勉強会を開催している。 【令和4年度 1回開催】

- 〈日 時〉 令和4年9月5日（月）午後1時30分から午後2時30分まで
- 〈場 所〉 守山市民交流センター 研修室1
- 〈参加者〉 10名（職員有志メンバー）
- 〈議 題〉 中間支援組織の構築について
- 〈結 果〉 「まずは市内の活動団体におけるニーズを把握したうえでコンセプトや方針を定めることで、求める人材や人数等も決まるはず」「いきなり指定管理や業務委託まで考えるとハードルが高いので、直営のうちに仕組みを作って部分的にお願いできるといい」などの意見が出た。

(4) 「市民参加と協働のまちづくりフォーラム」の開催

未来を見据えたまちづくりに対する市民意識の醸成を目的に、まちづくりの課題解決のヒントにつながる活動の事例発表や講演を開催する。【令和4年度 年2回開催】

- 第1回：令和4年5月29日（日）守山市民交流センター 多目的ホール

まちづくり推進員リーダー研修会（社会教育・文化振興課）と合同開催

〈第一部〉 学区・団体等の活動取組報告

「河西まるごと活性化プランの取り組みについて」 河西学区

「演劇で守山に『未来のチカラを』」 もりやまふるさと劇団

〈第二部〉まちづくりの先進事例

「若者の地域活動への参加」 日本青年会館 山本信也 氏

参加者：67名

- 第2回：令和5年2月26日（日）守山市民交流センター

〈第一部〉 団体等の活動取組報告

オムスビの会

もりやまこども日本語学習クラブ

〈第二部〉 講演

「孤立した親・こどもが一人もいない社会を目指して」

西成チャイルド・ケア・センター 代表理事 川辺康子 様

参加者：22 名

(5) ファシリテーター養成講座（基礎編・フォローアップ編）の実施

中立的な立ち位置から意見を調整し、積極的な意見交換を促すなど、効率的かつスムーズな会議運営に欠かせないファシリテーター。段階的にファシリテーションを学んでいただけるよう基礎編とフォローアップ編に分けて実施している。また、本養成講座を受講された方は市民懇談会やワークショップ等でファシリテーターとしてご活躍いただいている。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止。

○ 職員向けファシリテーター養成講座

〈日 時〉 令和4年12月23日（金）

〈場 所〉 守山市民交流センター サロンルーム

〈講 師〉 谷口 知弘 氏（福知山公立大学 地域経営学部 教授）

〈受講者数〉 37 名（午前の部 19 名、午後の部 18 名）

○ 市民向けファシリテーター養成講座 基礎編

〈日 時〉 令和5年1月7日（土）午後1時30分から午後4時30分まで

〈場 所〉 守山市民交流センター 研修室1・2

〈講 師〉 谷口 知弘 氏（福知山公立大学 地域経営学部 教授）

〈受講者数〉 23 名

○ ファシリテーター養成講座 フォローアップ編

〈日 時〉 令和5年1月27日（金）午後1時30分から午後4時30分まで

〈場 所〉 守山市民交流センター 多目的ホール

〈講 師〉 西川 実佐子氏

（認定特定非営利活動法人しがNPOセンター 事務局長）

〈受講者数〉 20 名（職員 12 名、市民 8 名）

(6) 市民活動手引書「もり・まっち」等の発行 【年1回】

市民活動に関する情報（市民交流センターや図書館等の市内公共施設の使用料など）を記載した市民活動手引書「もり・まっち（初刷 500 部）」および、団体同士の連携やつながりを創出することを目的とした「市民活動団体マッチングリスト（初刷 100 部）」を発行。市内関係施設に設置するほか、市HPにも掲載。

(7) 「さんさんまちサポセミナー」の開催

市民活動やまちづくりに取り組まれている方々に向けて、日々の活動における困りごとの解決や団体活動の幅を広げていただくことを目的に開催。ITツールの活用や情報発信、資金調達など団体活動に有益なセミナーを企画。現在取組を進める中間支援機能の一環として開催（一部のみの受講も可、受講料無料、託児対応も可）

	日時・テーマなど	受講者数
第1回	9月24日（土）10：00～11：30 「コロナに負けるな！活動継続のためのZ o o m活用術」	12名
第2回	10月15日（土）13：30～16：30 「イチから分かるSDGs ～今、私たちにできること～」	8名
第3回	11月2日（水）19：00～20：30 「新たな資金調達のカタチ クラウドファンディング」	9名
第4回	11月25日（金）10：00～11：30 「わかる！コミュニティ運営と伝わる情報発信」	6名
第5回	12月10日（土）10：00～11：30 「デザインの幅が広がる！C a n v aの使い方講座」	23名
第6回	12月17日（土）10：00～11：30 「労働者協同組合ってなに？新しい活動のカタチ」	5名
第7回 （前述）	1月7日（土）13：30～16：30 「ファシリテーター養成講座 基礎編」	23名
第8回 （前述）	1月27日（金）13：30～16：30 「ファシリテーター養成講座 フォローアップ編」	20名
第9回	2月10日（金）13：30～16：00 「NPO向け決算講座 会計編」	5名
第10回	3月28日（火）19：00～20：30 「令和5年度市民提案型まちづくり支援事業について」	2名
	計（延べ人数）	113名

(8) 守山市民交流センター「さんさん守山」について

ア 施設利用状況（令和5年3月末時点）

○文化活動スペース（貸館） 利用者数 27,150名（R3：27,937名）

施設利用率 46.3%（R3：53.6%）

※天井部材剥落のため多目的ホールの貸館を停止（6月13日～11月20日）

○市民活動スペース（無料） 利用者数 4,899名（R3：3,616名）

施設利用率 16.1%（R3：15.7%）

※1～3月にサロンルームをマイナンバーカード交付特設会場として使用したが、上記の利用者数および施設利用率には含まず。

イ 事業実施

(ア) 「もりやま市民活動フェスタ 2022」の開催（実行委員会主催）

令和3年度より、市民活動団体主体の「市民活動屋台村」と文化・スポーツ活動団体主体の「さんさん守山文化祭」を一体化させた「もりやま市民活動フェスタ」を開催。センター主導ではなく、実行委員会主体による企画・運営を進める。

〈日 時〉 令和4年11月19日（土）午前10時から午後5時まで

11月20日（日）午前10時から午後3時まで

〈内 容〉 活動展示、体験コーナー、ステージ発表など

〈参加者〉 延べ600名

〈結 果〉 6月から10月にかけて全5回の実行委員会を開催し、内容や会場の装飾、広報等について、実行委員の意見を伺いながら準備を進めたが、委員会の進行や議題提案等は、ほぼ事務局が担うこととなった。実行委員の積極性や主体性を引き出すことが来年度以降の課題である。今年度は、集客のための目玉企画として、吉本興業所属の芸人によるお笑いステージや、市内の福祉事務所や作業所の物販、米袋エコバッグづくり体験コーナーを実施したが、いずれも非常に効果的であった。センター利用者や団体と市民が交流し、お互いを知る貴重な機会となった。

(イ) 「さんさんまちサポセミナー」の開催（センター主催）（前述7のとおり）

市民活動団体向け市民交流センターの中間支援事業の一環として初めて企画。

(ウ) 協力事業（開催目的の公益性に鑑み、貸館の事前予約等で運営に協力）

民営時に実施されていた事業を継続

○パソコンおたずね室（毎週水曜日、午後1時～、交流室）

パソコンや周辺機器、スマートフォンなどの操作や設定に関する相談の場。高齢者を中心に、毎回数名の相談者が訪れている。ボランティア団体G A Gによる運営、協力金として200円/回。

○歌おう会（毎月第2・第4水曜日、午後1時30分～、サロンルーム）

高齢者に外出機会を提供。口を大きく開け、大きな声で歌うことで、高齢者の健康維持につながる効果を期待し実施いただいている。

○暮らしの相談室（毎月第4木曜日、午後1時～午後5時、ミーティング室）

滋賀県行政書士会湖南支部による無料の個別相談会。相続や遺言、成年後見などの悩みを解決する社会貢献を目的に実施いただいている。

3 中間支援組織の構築に向けた取組

(1) 先進自治体の視察

市民交流センター機能の見直しを行うにあたって大きな課題である、中間支援のあり方、またその機能を担う組織の構築や人物の発掘等について、先進的な取組を実施している自治体を視察し、今後の本市での取組の参考とするため実施。

○県外視察

・・・別紙1

関東地方4市（職員2名）

＜日 程＞：令和4年10月6日（木）から10月7日（金）まで（1泊2日）

＜視察先＞：神奈川県横浜市市民協働推進センター

神奈川県藤沢市市民活動推進センター

東京都府中市市民活動センター プラッツ

神奈川県川崎市 かわさき市民活動センター

中部地方3市（職員2名）

＜日 程＞：令和4年11月21日（月）から11月22日（火）まで（1泊2日）

＜視察先＞：愛知県小牧市市民交流テラス ワクティブこまき

愛知県岡崎市りぶら市民活動センター

長野県佐久市市民活動サポートセンター

○県内視察

- ・草津コミュニティ支援センター（草津市）
- ・長浜市市民活躍課、ながはま市民協働センター（長浜市）
- ・まちづくりネット東近江（東近江市）
- ・まちづくりスポット大津（大津市）
- ・大津市市民活動センター（大津市）

(2) 市民活動団体拠点施設の視察（中間支援組織の構築に向けた取組）

市民交流センター機能の見直しを行うにあたって大きな課題となっている、中間支援のあり方に関して、市内にある市民交流センター以外の市民活動団体が活動の拠点としている施設への聞き取りを行い、情報を整理。将来的には、各施設間での連絡協議会によって情報交換を行い、市民と各施設をマッチングできるような仕組みを検討する。

- ・市社会福祉協議会 ・図書館 ・各地区公民館 ・市民ホール
- ・エルセンター ・あまが池プラザ ・駅前コミュニティホール